

新風会・公明
松本聖司郎
議員



○ キッチンカーと観光について ○ 転入者等に向けた空き家の利活用の取り組みについて

議 GW中にかつやま恐竜の森の広場で行われた「恐竜キッチンカーまつり」では、まちなか誘客の面で足りなさを感じた。

理 キッチンカーや市内飲食店から相互協力の意思を聞いているが、観光の産業化を目指す勝山市として現在の状況をどう把握し、今後どうしていくのか伺う。

議 新型コロナウイルスにより事業拡大や事業転換の支援として実施したキッチンカーの存在が、市民に認識され、浸透してきていると感じている。

理 キッチンカーは、イベント会場のほかに市内の各観光地にも出店しており、キッチンカーを巡り、市内観光地も周遊するなど新しい楽しみ方の提案も行っていくとともに、毎月のキッチンカー出店情報を広く周知していく。

議 道の駅にてキッチンカー店主と協力し、早速、関係人口を増やせた事例があった。これを機に今後も増やしていきたい。

議 現在、勝山市に転入してきた、または転入を考えている方と話をしている。独自調べによると、共通の問題視に上げる項目がネット環境が一位、次いで家屋、収入、雪の順であった。「ネット環境を整えた空き家の改築の必要性」と恐竜学部発足時の学生も対象となる「単身者の賃貸物件の増」が必要だと感じるが、市の見解を伺う。

理 空き家情報バンクの利用促進を図るため、インターネット環境が整った物件や地租的条件に合う物件などの登録物件を充実させていく。

議 また、空き家のリフォーム補助などを行い、シェアハウスも含め学生や単身者などが利用しやすい賃貸物件が増えるような施策を検討していく。

理 今後も空き家を地域の資源として活用促進の支援をしていく。

議 せっかく良い施策をしていてもPR人口が足らな過ぎる。根幹の人口減少問題解決のためにも、市外への発信強化への協力を願う。

新風会・公明
吉田清隆
議員



○ 防災部署の女性配置について ○ 小中学生のうつ状況について

その他の質問

- ・災害時の安否不明者の公表について
- ・家庭用ごみ袋について
- ・教師不足について

議 内閣府が都道府県と全国の市区町村を対象に女性の防災部署の配置を調査したところ、61.9%の市町村で防災・危機管理部に配属されている女性職員が0で、避難所運営や備蓄用品に女性の視点が反映されにくい現状が浮かび上がった。その原因として、休日の緊急対応や災害時の長時間勤務等、自治体が男性の配属を優先し、女性がほとんどいない職場で定着が困難であると推測している。

理 勝山市の現状と今後の対応を伺う。

議 県内17市町では、勝山市を含む7市町で防災部署に女性職員が配置されておらず、全体の総配置職員数に占める女性職員数の割合は14%となっている。夜間の緊急対応や泊まり込みが必要となるため、子育てや家庭での負担の大きい女性に対する配慮が、結果的に女性職員の配置ができていない理由である。

理 一方、避難所管理責任者や運営担当職員には、原則、女性職員を1名以上配置し、災害時に極力ストレスなく避難できる環境を作れるよう運営体制を確保している。

議 国立成育医療研究センターが新型コロナウイルスが子どもの生活や健康に与える影響について調査したところ、小学校高学年から中学生の1〜2割にうつ症状が見られた。重症度の高いうつ症状を示す児童・生徒ほど「すぐに誰かに相談する」と回答した割合が低く、「誰にも相談しないで様子を見る」と回答した割合が高く、家庭内で抱え込む傾向も浮き彫りになり、担当者は「正しく理解し、SOSを出してほしい」と呼び掛けている。

理 市内小中学校において、うつ症状とみられる児童・生徒は確認されているのか。

議 現在、勝山市において、うつ症状であるとみられる児童生徒の報告は受けていない。

理 学校では、日頃から健康観察や授業を通して児童生徒の表情や様子を観察し、先生同士での情報共有のほか、定期的に個人面談を行ったり保護者から家庭の様子を聞いたりして実態把握に努めている。支援が必要な児童には、担任やスクールカウンセラー、保護者等とチームとして様々な対応をしている。